

2025 年 4 月号

令和 7 年 4 月 17 日

漁況情報・浜の話題

神奈川県水産技術センター

企画研究部 046-882-2489

相模湾試験場 0465-23-8531

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/wadai/>



漁況情報

【3月13、14日】江の島：定置網・ブリ好漁

3月13日、14日に江の島片瀬漁協所属の江の島漁業(株)の定置網でブリがそれぞれ4.3t及び3.2t漁獲されました。大きさは8kg前後主体で、丸々と太った魚体で脂ものついていたそうです。同定置網漁業者は、この時期にブリの漁がまとまることは珍しく、今後の漁にも期待したいと話していました。

【3月半ば】葉山・小坪：天然ワカメ、最盛期

3月半ばになり、葉山や小坪でワカメの収穫が最盛期を迎えています。2月から、各地で収穫が始まり、製品サイズに達したワカメから順次収穫しています。

浜の話題

【3月2日】平塚：漁業就業支援センター卒業生、テレビ放映

3月2日、フジテレビ「ノンフィクション」の番組内で、神奈川県漁連の漁業就業支援センターの研修を修了した石川さんが取り上げられました。石川さんの漁業や海への想いや、就職先である平塚市漁協所属の(有)日海丸の定置網漁での奮闘の様子が紹介されました。

神奈川県内での漁業就業に興味をお持ちの方は、県漁連が「神奈川で漁業者を志す方へ説明・相談会」を奇数月の第2木曜日13:30～(祝祭日の場合は、翌週の木曜日)に開催していますので、ご利用下さい。

「神奈川で漁業者を志す方へ 説明・相談会」 <https://www.kngyoren.com/pages/161/>

神奈川県内の漁業就業者募集情報 <https://www.kngyoren.com/pages/107/>

番組ページ https://www.fujitv.co.jp/thenonfx/_basic/backnumber/index-259.html

【3月4、5日】東京：全国青年・女性漁業者交流大会

3月4日、5日、第30回全国青年・女性漁業者交流大会が東京都中央区のAP日本橋で開催されました。本県代表として小田原市漁協刺網部会の鈴木青年漁業士が「小田原あんこう知名度向上の取組」について活動発表を行いました。春になると魚価が低迷するアンコウの魚価向上に取り組み、成果が出てきていることが高く評価され、第3位にあたる水産庁長官賞を受賞しました。おめでとうございます。

【3月6日】小田原：「小田原あんこう」の捌き方講習

3月6日、小田原市漁協刺網部会の江森指導漁業士は、「小田原あんこう」や刺網漁について、

料理教室を主宰されたり野菜ソムリエの資格を持つなど知識が豊富なかながわブランドコンダクターの方々を対象に講演を行いました。また、講演後は江森指導漁業士の奥様による捌き方講習が行われ、参加者は「小田原あんこう」への理解を深めていました。参加されたブランドコンダクターの方々は、今回の講習内容を踏まえて、「小田原あんこう」のPRをして行くそうです。



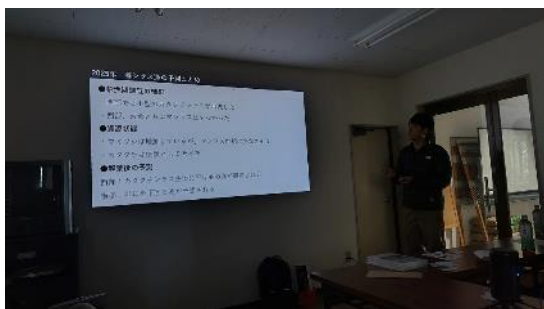
小田原あんこう



刺網漁の説明

【3月7日】しらす協議会：漁期前研修会開催

3月7日、しらす協議会は湘南漁協鎌倉支所会議室で、漁期前研修会を開催しました。当日は会員23名が参加し、水産技術センターの研究員から、前年の漁獲状況と、禁漁期に実施した試験操業調査結果、それを踏まえた春しらすの漁況予測について説明がありました。昨年もしらす漁が不安定な状態だったので、参加した会員から、黒潮大蛇行や高水温傾向によるしらす漁への影響等について多くの質問があり、「海水温上昇によりしらすが獲れる漁期も移行しているのでは？」という声もありました。



しらす協議会 漁期前研修会の様子

【3月8日】大磯二宮漁協：ハマグリ試験操業

3月8日、大磯二宮漁協所属 第5ふじ丸 藤原青年漁業士は、ハマグリ(チョウセンハマグリ)試験操業を実施しました。大磯地先では、これまでナガラミ漁が主体でハマグリは数個程度の混獲のみでしたが、ハマグリ用の貝桁(ナガラミ用と比べて重量があり爪が長い)で操業したところ、15kg90個の漁がありました。漁業者によると、ここ70年の間、ハマグリのもとまった漁はなく、新たな漁獲対象と成り得る今回の試験操業結果を踏まえて、今後のハマグリ漁に熱い期待を寄せています。



試験操業で採捕されたハマグリ

【3月8日】真鶴：漁業体験研修

3月8日、技術センター相模湾試験場は、漁業就業に興味がある方を対象とした漁業体験研修を真鶴町漁協の定置網で開催しました。当日は10名の参加があり、参加者は網締めから水揚げ、選別の一連の作業を見学しました。また、見学後は漁業者や漁協職員と意見交換を行い、定置網漁業についての理解を深めていました。



漁場に向かい出港



漁協職員から説明を受ける様子

【3月10日】平塚市漁協：海底耕耘

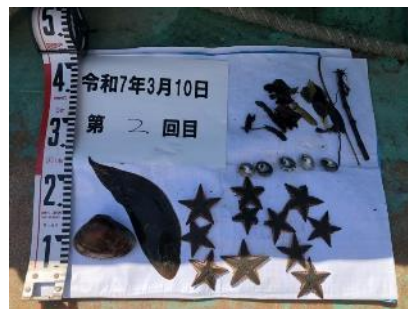
3月10日、平塚市漁協は地先漁場の海底耕耘(特別採捕許可調査)を実施しました。当日は(株)川長水産の漁船で海底耕耘を行い、耕耘用の桁に付けた網には、シタビラメ、ヒトデやヤドカリ(ナガラミの貝殻)等に加えて1個240gのチョウセンハマグリも入りました。同漁場では、しらす船曳網漁、貝桁漁が営まれ、ハマグリが生息も確認されていることから、海底耕耘による底質環境の改善が期待されます。



投網の様子



桁網の引き揚げ



ハマグリは特大サイズでした

【3月13日】小田原：藻場モニタリング

3月13日、小田原藻場再生活動組織は、江之浦地先のカジメ藻礁周辺と10月にスポアバッグを投入した海域のモニタリング調査を行いました。両海域でカジメの新芽が確認され、藻場再生活動の効果が実感できました。藻礁の管理やスポアバッグの投入を引き続き行うことで、藻場再生を目指します。



カジメ新芽

【3月18日】葉山：アワビ・トコブシ放流

3月18日、湘南漁協葉山支所は、(公財)相模湾水産振興事業団の支援を受けてアワビの種苗を8,000個、トコブシの種苗を5,000個地先に放流しました。放流は、魚に捕食されないよう潜水により実施しました。

【3月24日】長井、佐島：トラフグ情報交換会

3月24日、長井町漁協及び湘南漁協は、(一社)全国ふぐ連盟、千葉県ふぐ連盟及び神奈川県ふぐ協会とトラフグに関する情報交換を行いました。情報交換は、小坪漁協において神奈川県ふぐ協会の理事を務める小坪漁協の座間指導漁業士の呼びかけにより行われました。トラフグの価格が低迷する中、千葉県における魚価維持の工夫や流通業者等が求める漁獲物の扱い方等の情報が寄せられ、また、春に来遊する産卵親魚の保護の必要性が指摘されました。



情報交換会の様子

【3月25日】岩：カジメ籠設置

3月25日、岩漁協海士会は、藻場再生に向け、食害防止カゴに入れた早熟カジメを漁港内に設置しました。夏頃まで漁港内で管理した後、漁港外にも移設していく計画です。



カゴを準備する様子



設置するカゴ

お知らせ

【5月11日】腰越：みなとまつり

5月11日(日曜日)腰越漁港において、腰越漁協は「腰越漁協みなとまつり」を(公財)相模湾水産振興事業団との共催により開催します。鮮魚や朝どれフライの販売、サザエの稚貝を放流する乗船イベント(無料)が行われます。

腰越漁協ブログ <https://blog.goo.ne.jp/koshigoegyokyou>